

Lead

All roads lead to the future リード



コミュニケーションペーパー
2016 Spring 春号 ¥0 TAKE FREE

THE こうちユニバーシティCLUB 特別編

新奨学金で、さらなる地方創生へ

新入生へのメッセージ

学長・学部長からのメッセージ

キラ星高知大生

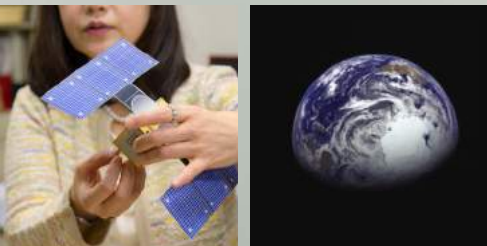
四国6大学野球、9年ぶりの優勝!

優勝に導いた4年生バッテリーが得たものとは?

まなびの時間

社会起業論

高知大学ニュース



〈特集〉 宇宙を視る、 探る、知る

「はやぶさ2」プロジェクトの一端を担う高知大学

「はやぶさ2」/H-IIAロケット26号機 ©JAXA

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション

Event information 2016 Spring 春号

フォルカー・フィンケ氏を招聘して 各種イベントを開催します

スポーツを通じた地域貢献の一つとして、5月中旬にドイツの著名なサッカー指導者Volker Finke氏を高知に招き、県内各地において講演やサッカー教室等のイベントを開催します。詳細は4月中旬に本学ホームページ等でお知らせします。人と地域がスポーツを架け橋として連携することで、地域コミュニティは活性化していきます。皆様のご参加をお待ちしています!



フォルカー・フィンケ氏プロフィール

1990年代、高校教師からブンデス2部のSCフライブルクの監督に就任。「ドイツで最もモダンなサッカー」と評価されたチーム戦術を武器に同クラブを飛躍的に躍進させ、クラブ史上初の2部優勝、1995年には1部3位に導いた。また、同クラブで16年もの長きに渡り監督を務め「ドイツを代表する模範的なプロクラブ」に育て上げたドイツで最も高く評価される指導者の一人。同クラブの監督を退任後、J1浦和レッドダイヤモンズ、ブンデス1部1.FCケルン、2014年ブラジルワールドカップのカメルーン代表チームの監督を歴任。現在も世界中の代表監督、クラブ監督のオファーが絶えない。

オープンキャンパスのお知らせ

Open campus 2016

平成28年度のオープンキャンパスは、8月6日(土)、7日(日)に開催いたします。企画の内容、日程等の詳細は、決まり次第、順次ホームページに掲載します。申込方法は7月上旬に掲載する予定です。



朝倉・岡豊・物部
3つのキャンパスで
それぞれの
高知大学を
体感しよう!!



ホームカミングデーのお知らせ

高知大学卒業生の皆様、第7回目となるホームカミングデーは、10月30日(日)に開催します。詳細は、7月頃に大学ホームページでお知らせする予定です。ぜひご参加ください。

10/30(日) 黒潮祭と同時開催

記念式典・記念講演・懇親会など様々なイベントを行います。久しぶりに、母校での一日をぜひお楽しみください。



メルマガ
配信中!
月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメルマガジンを配信しています。大学の「入試情報」から「あれこれ(これは面白い)」まで!!
登録はこちら <http://daigakujc.jp/kochi-u>



●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

高知大学広報戦略室

高知大学

検索

<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

平成28年度学年暦 Campus schedule

高知大学の授業等に関する年間スケジュールです。

4月～6月

4/3(日)	入学式
4/4(月)	新入生オリエンテーション
4/5(火)	在来生オリエンテーション
4/6(水)～8(金)	第1学期履修登録期間
4/12(火)	第1学期授業始

7月～9月

8/2(火)～8(月)	第1学期試験期間
8/9(火)～31(水)	夏季休業
9/1(木)～30(金)	特別授業期間
9/20(火)	秋季修了式
9/26(月)～28(水)	第2学期履修登録期間

10月～12月

10/1(土)	創立記念日
10/3(月)	第2学期授業始
10/8(土)・9(日)	南風祭(岡豊キャンパス)
10/29(土)・30(日)	黒潮祭(朝倉キャンパス)
11/3(木)	物部キャンパス1日公開(予定)
12/28(水)～1/4(水)	冬季休業

1月～3月

1/14(土)・15(日)	大学入試センター試験
2/2(木)～8(水)	第2学期試験期間
2/9(木)～28(火)	特別授業期間
3/1(水)～31(金)	学年末休業
3/23(木)	卒業式・修了式

高知大学の最新情報を伝えたい

THE こうち ユニバーシティ CLUB

FM 高知
81.6MHz

毎週日曜日 放送中
(9:30～9:55)

高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!

http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fm_kochi/

高知大学の教育、研究、地域貢献等の
ホットな情報をお届けします。

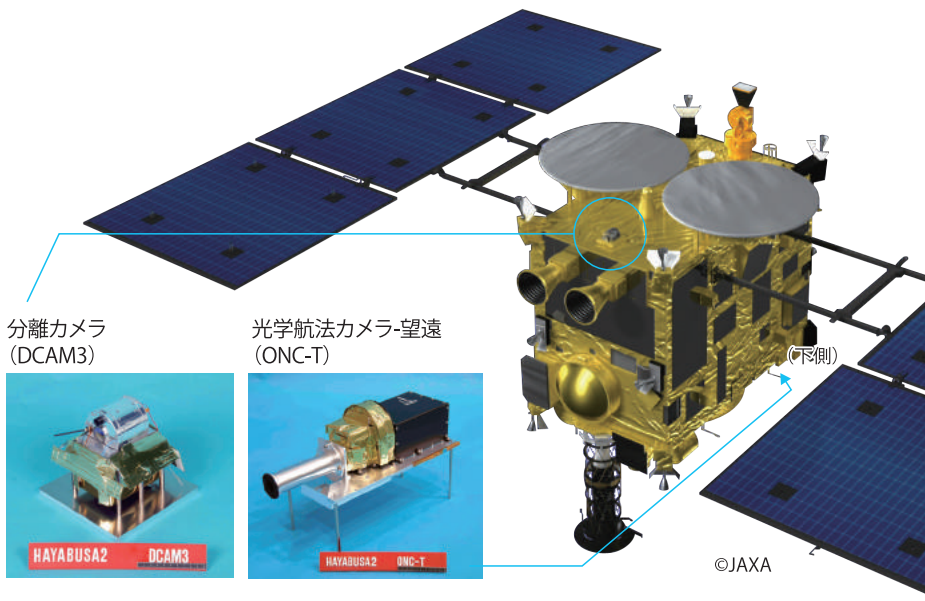
スポンサー企業 高知銀行／相愛
ソフテック／アークエステート



特集

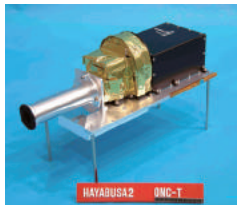
宇宙を視る、探る、知る

「はやぶさ2」プロジェクトの一端を担う高知大学



分離カメラ (DCAM3)

光学航法カメラ-望遠 (ONC-T)



©JAXA



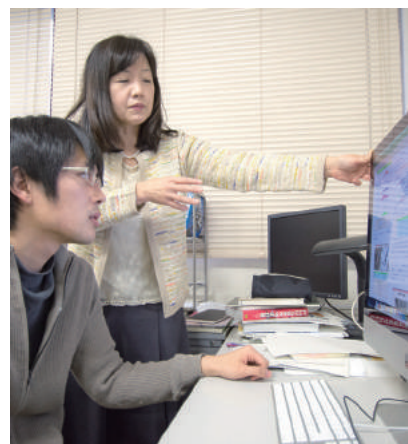
衝突装置により人工的にクレーターができた瞬間の想像図
「はやぶさ2」は小惑星の陰に退避している (©池下章裕)

衝突現場で頑張る 分離カメラ

やすくするため、反射率などをもとにフィルターの波長の検討などを行ったそうです。

本田先生が開発メンバーとなった、もう1つの科学観測可視カメラは「分離カメラ (DCAM3)」。「はやぶさ2」は含水鉱物や有機物などを探る際、人工衝突体を小惑星の表面にぶつけてクレーターをつくり、露出面から新鮮なサンプルを採取する計画を立てています。その際、「はやぶさ2」は、衝突による破片から身を守るため衝突装置と「分離カメラ」を切り離し、小惑星の陰に避難します。残された「分離カメラ」が衝突の様子を撮影します。

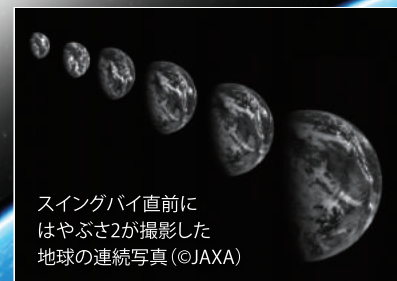
「衝突時の1回限り使用される」頑張るカメラです。バッテリーは2時間程度しか持たないので、衝突時の画像と映像を送ったら、



教育研究部 自然科学系
理学部門 准教授

ほんだ りえ
本田 理恵

愛媛大学理学部卒業。名古屋大学大学院理学研究科博士課程後期満了。博士(理学)。人工知能(主に機械学習、データマイニング、画像認識)、地球惑星情報学が専門。「カメラの開発チームでは私が最年長なので、チームのマネージャー的な役割にもなっているような気がします」と笑う。



スイングバイ直前にはやぶさ2が撮影した地球の連続写真 (©JAXA)

高知と宇宙は つながっている

2014年12月3日に打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2」。世界で初めて小惑星から表面物質を持ち帰ることに成功した「はやぶさ」の後継機です。現在、太陽系の起源や進化の謎を探るため、小惑星「Ryugu(リウグウ)」を目指して航行しています。「はやぶさ2」には日本の科学技術を結集したさまざまなミッション機器が搭載。そのなかで、高知大学も科学観測可視カメラの開発、画像解析に協力しています。



2015年12月4日13時09分(日本時間)
スイングバイ後のはやぶさ2が撮影した地球
(©JAXA、協力 産業技術総合研究所)

打ち上げからちょうど1年の昨年12月3日、重力を利用した「気の加速」地球スイングバイに成功し、地球軌道と似た軌道から小惑星へ向け軌道を変えた「はやぶさ2」から、宇宙から撮影した地球の画像が、JAXA(宇宙航空研究開発機構)に送られてきました。群青色の海、渦巻く雲、純白の南極大陸…。闇に浮かび上がる美しい地球の画像は、多くの人の記憶に残っていることでしょう。

「送られてきたのは小さなモノクロ画像なのですが、チームでカラー合成してみると、海はちゃんと青くて、白い部分も雲と水の違いを明確に判別できました。まずは良かった…と思いました」

こう振り返るのは「はやぶさ2」カメラ開発チームの員、理学部准教授の本田理恵先生。大学院生のとき、ISAS(宇宙科学



分離カメラの原寸大模型(神戸大学 荒川政彦教授 提供)

研究所)の月探査に関係する研究室で学んだことから、宇宙開発とのつながりができたそうです。

現在の専門は人工知能、地球惑星情報学で、衛星画像を用いた時空間データマイ

はやぶさ2の「目」となる 光学航法カメラ

本田先生は「はやぶさ2」プロジェクトで、2つのカメラの開発メンバーに入っています。1つは「光学航法カメラ(ONC)」。地球の画像を撮影したのはこのカメラです。光学航法カメラは航行中「はやぶさ2」の「目」として、進んでいく方向を明確にするなどのナビゲーションを行います。加えて、このカメラには小惑星へのタッチダウン(着陸)にむけて、さらに重要なミッションが待っています。

高知大学ラジオ番組は
高知大学のHPからご視聴いただけます。
これからの放送予定や、過去放送分もありますのでお聞き逃しなく!

●スポンサー企業

高知銀行
相愛
ソフテック
アークエステート



http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fm Kochi/

高知大学地方創生人材育成基金 奨学金制度

〈概要〉

高知県内企業からの寄附金に基づく「高知大学地方創生人材育成基金」を原資として、高知県に根ざし、高知県に貢献する人材を育成することを目的とする、返還義務を必要としない奨学金制度です。

〈給付金額・給付期間〉

- ・給付金額：年額40万円
- ・給付期間：3年生当初（医学部医学科は5年生）から最長2年間

〈主な申請資格〉

- ・高知県の発展に貢献するため、卒業後高知県内で就労する強い意志のある者
- ・2年生（医学部医学科生は4年生）
- ・2年生の第1学期までの修得単位が48単位以上の者（医学部は進級判定に合格した者）
- ・2年生の第1学期（医学部医学科は4年生の第1学期）までのGPAが2.0以上の者

〈募集人員〉

平成28年度：4名

優秀な学生に
高知で活躍して
ほしい!

実際の
対談の様子は
大学HP
番組ページで。



株式会社ヒワサキ
代表取締役
日和崎 二郎さん

高知県石油業協同組合理事長、エネルギー関連企業の株式会社ヒワサキ社長、イーアンドイー株式会社社長、日和崎ホールディングス株式会社会長、など。

高知大学
学長
脇口 宏

1971年、岡山大学医学部卒業。博士（医学）。1981年、高知医科大学講師（小児科）、2001年、同大学教授。2012年、高知大学学長に就任。

司会
FM 高知アナウンサー
松木 亮さん

1999年高知大学人文学部卒業。FM高知アナウンサー。「THE こうちユニバーシティ CLUB」「Morning Click!」「TSUTAYA Music Journey」などの番組を担当。

新奨学金で、 さらなる地方創生へ

「地方創生人材育成基金 奨学金」への思い

高知大学では2016年度より、卒業後、高知の将来に貢献することを目指す学生を対象に、「地方創生人材育成基金奨学金」を給付します。1月3日、FM高知の高知大学ラジオ番組に本奨学金の発起人（株）ヒワサキの日和崎二郎社長と脇口学長が出演し、「高知の将来を支える人材の育成」について対談しました。

12016年度から、いよいよ高知大学独自の給付型奨学金がスタートします。高知県で活躍する人材の育成に向けて、ぜひ学費に充ててほしいという、（株）ヒワサキの日和崎二郎社長、瀬谷食品（株）の瀬谷伸一社長のご寄附で始まりました。日和崎社長、どのような思いで申し出されたのでしょうか？

●日和崎／高知県は従来より、人材輩出県として学生さんが都会に出ていってしまおうという厳しい状況にありまます。これは、ある意味致し方ないことであるとは思いますが、じつは私も東京の大学に行った1人なのですから、けれども、都会と地方の生活の違いに気づいたこともあって、高知に帰ってきました。高知には都会とは違う、様々なものの豊かさがあります。人情は厚く、お



金の有効活用もできるなど。こうした優れた面について、もっと我々が高知の学生たちに伝えなければならぬという思いがあります。

1高知は素晴らしい。だから学生たちが卒業後、高知で働いてほしい、と願っているのですね。

●日和崎／はい。1人でも多くの学生さんに、この高知で就職し、高知のために活躍していただきたい。そのために、この奨学金を活用していただきたい。我々はこれまで高知でお世話になって、曲りなりにも会社を成長させることができた。その恩返しといえますが、社会貢献活動をもっとしなければいけないという思いから、返還義務のない奨学金制度として提案させていただきました。

高知の企業の実態について
学生たちへもっとPRを

1高知は人がいい、人情が温かいと、県外の人にはよくおっしゃいますが、経済的な面から見ると、これから働く世代が高知にとどまりにくいという状況があるかと思っています。

●日和崎／私もいろいろな企業経営者と一緒に、学生さんに対して、高知に定着していただくための活動をしています。そうしたなかで感じるのは、高知にどういった企業があるか、どういった事業をして、社会にどういった貢献をしているかという、高知の企業の実態を学生さんたちはあまりご存じないということ。どうしてなのかと考えると、我々の伝え方が足らないのではないかと気がついたので。したがって、高知の実態を正しく

1脇口学長、こうした寄附をいただけるのは非常にありがたいですね。

●脇口／学生たちが有効に使えるように、しっかりと運用していきたいと思っています。学生はどうしても大都市や大企業に目が向いてしまいます。しかし、これからは都会で消耗しながら働くのではなく、地方でいきいきと働き、幸せに暮らすことが重要になって



知県での就職という領域について、大学側の広報も今後はもっと充実させていきたいと考えています。

高知大学は、 地方創生に関わる 人材育成に全力を尽くす

1高知大学では、地方創生のために頑張る人を増やす取り組みをしています。今回の奨学金は、そういった活動の核の1つになりそうです。

●日和崎／わたしのこれからの役割は、地元の企業経営者の方々に奨学金の意義を伝えて、多くの賛同をいただ

くことにあります。今回は5名の学生にしか奨学金を出すことができません。しかし今後、賛同者が10人、20人、50人と増えていけば、100人、200人といった学生に給付することができるようになります。そういった学生たちが高知のために力を発揮すれば、少子化も怖くない。これから経営者の方々にこういった話を伝えて、ぜひ協力していただきたいと思います。

1学長、これからの意気込み、展望をお聞かせください。

●脇口／地方が回復しない限り、日本の本格的な復活はあり得ません。地方創生がならないと日本が本当にだめになり、地方大学も消えるということにもなりかねません。地方創生といえ、高知大学の代名詞だといほどの自負を持っています。高知大学は不転の覚悟で、地方創生に関わる人材育成に力を入れていきます。

学生へ有効に
使えるよう
しっかり運用します。

高知大生よ、 地域から世界へ 羽ばたけ

高知大学 学長
脇口 宏

高知大学では、我が国初の「地域協働学部」が平成27年度にスタートし、高等教育に革命的な新風を吹き込んでおります。今年度は分野統合的で幅広い人文社会科学系の知的能力を育成する「人文社会科学部」と、「海洋資源科学科」の新設により、森林、農地、河川に加え、海洋・海底までを総合的に教育研究し、資源を維持・管理する文理統合教育組織「農林海洋科学部」がスタートしました。現在、来年度の理工学部(仮称)の設置に向け、手続きを進めているところです。

高知大学は、伝統的に地域協働活動と文理融合・統合教育研究を推進しており、社会を知り、文系・理系にまたがる広い視野に基づく発想力・課題発見力、実学と地域協働学を基盤とする課題解決力を育成する教育を実践しております。国際社会を意識しないでは済まない時代では、自分自身と地域そして日本という国を知り自己アイデンティティを確立し、自律性と自己責任、文化力・教養力、共感力、語学力などに加えて、世界にも目を向ける広い視野を持つことが求められます。これらの能力はあらゆる人材に等しく求められる能力です。グローバル社会になったからといって、大学教育がコペルニクスの転回をすることは無いのです。

高知大学は、「地域から世界へ、世界から地域へ」往還的な発想と確実な行動力に加え、地域で活躍することが国際人として世界に羽ばたく起点となるような「グローバル人材」を育成する教育・研究を推進します。

世界に羽ばたく人材に育つために、まずは自分を知り、高知を知ることから始めましょう。



物部キャンパス



岡豊キャンパス



朝倉キャンパス

農林海洋科学部

高知で学ぼう
山から海底まで地球規模の産業科学

生物資源の利活用を中心に、食とくらしと環境面からの人間社会への貢献を考え続けてきた農学部、莫大な未利用資源が存在する海洋を科学する視点を加えた新学部「農林海洋科学部」が、平成28年春にいよいよスタートしました。山から深海にいたるまで、格好のフィールドが身近にすべて揃っている高知県を教育の場として、選りすぐりのプログラムを皆さんに提供します。



農林海洋科学部長
おがた つねお
尾形 凡生
●所属
自然科学系農学部門・教授
●専門分野
果樹園芸学

土佐さきがけプログラム

幅広い知識と視野で
世界を目指せ!

土佐さきがけプログラムの各コースが軸足を置く学問分野はそれぞれ異なりますが、いずれのコースでも、関連する様々な分野の学問を横断的かつ総合的に学ぶことができます。幅広い知識を統合して物事を考える力と社会への発信力を身に付け、現代社会が抱える様々な課題の解決に、グローバルな視点で積極的に取り組む人材に成長してくださることを期待しています。



運営委員長
いわ さきこうぞう
岩崎 貢三
●所属
総合科学系生命環境医学部門・教授
●専門分野
植物生育環境学

医学部

医療人になる前に
よき人間になれる

医療人は、人の命を預かる仕事であるためミスは許されません。このため、日進月歩の医学の進歩に合わせ生涯にわたり自己研鑽を続ける強い意志と能力、常に患者さん中心の立場にたち、他の医療スタッフを尊重する思いやりと責任感が必要です。つまり、強さと優しさを兼ね備えた人間でなければなりません。学生時代は、まず、人間の土台作り励んでください。



医学部長
ほん けこういち
本家 孝一
●所属
医学系基礎医学部門・教授
●専門分野
医学／生化学、医学／糖鎖生物学

地域協働学部

三つの協働で
地域協働のリーダーを目指せ

学生同士、教員と学生、そして地域と学生による協働を通じて地域協働のリーダーを目指します。(1)実習では、地域の人たちとの協働を通じて、徹底的に地域に向き合い、600時間に及ぶ実践的学びを行います。(2)演習では、教室での学びと実習での学びを活かして「地域」や「協働」に関する自らの理論を構築し、それを学年末論文にまとめます。一緒に頑張りましょう。



地域協働学部長
うえ だけんさく
上田 健作
●所属
総合科学系地域協働教育学部門・教授
●専門分野
非営利組織論・公益事業論

高知大学にしかない
学びがある。

教育学部

子どもに寄りそえろ
教師になろう

教育学部は、幼・小・中・特別支援学校の幼児・児童・生徒の成長・自己実現にとって、今ここで必要な内容・方法を長期的で広い視野から見抜き、実践できる教師を養成します。理論と実践の往還により実践的指導力を身につけるカリキュラムと、卒業後の進路を適切に選択するための学生支援体制を整備しています。



教育学部長
ふじ たえいじ
藤田 詠司
●所属
人文社会科学系教育学部門・教授
●専門分野
社会科教育学

人文社会科学部

人間は何処に向かうんだ!?
この叫びに響け

人文社会科学部には、哲学・思想、心理、歴史・地理、文学、文化・地域・言語の多元性、経済、経営、法律・政治をキーワードとする“学びのコア”があります。ここに学ぶ人たちは、これらの“コア”を基に自分の専門的教養を磨いていきます。と同時に、その専門は(人文社会科学領域)の幅広い教養と結びついて互いに“架橋”し、交じり合う学びの中からは柔軟な発想力が生まれていきます。



人文社会科学部長
よし おひろし
吉尾 寛
●所属
人文社会科学系人文社会科学部門・教授
●専門分野
中国近世近代史

理学部

不思議を探ろう

ある時期の子供は、新しいものを見るにつけ「なぜ、どうして?」を連発します。しかし、いつの頃からか、その純粋な疑問は封印されてしまいます。理学部に入学された皆さん、もう一度あの純粋な気持ちを取り戻して、身の回りにある多くの不思議に興味を持ち、その答えを探してみませんか。自然界にはまだまだ解き明かされていない謎が沢山あり、皆さんを待っています。



理学部長
すず きとむひろし
鈴木 知彦
●所属
自然科学系理学部門・教授
●専門分野
生化学

高知大学 学長
脇口 宏



地域の活性化を担う
起業家を目指します

(右) 社会起業論関連書籍
須藤先生著

「社会起業とは、地域や社会が抱える課題を事業として行うことです。社会起業論では、どうやって立ち上げ、運営するのか、どうすれば持続可能なビジネスモデルを作れるのか、などについて学びます」

授業を担当する須藤順先生がこう説明します。「社会起業」とは聞き慣れない言葉かもしれませんが、誰もが知る著名人ではあのないナイチンゲールも、「多くの人を助ける公衆衛生の仕組みづくりや現代看護の礎を作った」という意味では、代表的な

「名高い好事例が たくさんある高知県」

2015年度、共通教育教養科目で開講された「社会起業論」は、世界でもまだ新しい学問。米国で1990年代に誕生し、日本では2000年代以降、研究が進められるようになりました。

社会起業家といえるのだそうです。身近なところでは、高知県にも社会起業の好事例が数多くあります。たとえば、ゆず商品で全国に売り出した馬路村農協、地元四万十町の資源を活用して商品開発を行う株式会社四万十ドラマ、イチゴ農家が6次産業を手掛けた風工房などは、地域活性化に成功したビジネスモデルとして全国から大いに注目されているそうです。

「大学の近くに実践事例があるのは、社会起業論を学ぶうえで非常に有利な点です。昨春、授業で四万十ドラマの講義をしたんですが、その後、実際に四万十町の現地を訪ねて学んだ学生たちもいます。実践者と話すことができて、得たものはとても大きかったみたいです」と受講する学生らの積極的な学びについて、須藤先生が話します。

キラ★星 高知大生

学内外でキラッと光る
高知大生をピックアップ!

高知大学 硬式野球部

四国6大学野球、9年ぶりの優勝! 優勝に導いた4年生バッテリーが 得たものとは?

「絶対に優勝する!」と 最後の四国リーグに挑む

2015年秋、高知大学「硬式野球部」が秋季四国六大学野球リーグにおいて、11回目の優勝! 2006年秋季以来、9年18季ぶりにつかんだ栄冠でした。その原動力になったのがエースの柴田翔太さん(理学部)と、捕手で主砲の加賀爪匠さん(農学部)の4年生バッテリーです。

4年生は春に引退するのが通常です。なぜ、2人はその後も続けたのでしょうか? 柴田さんは「はじめは迷いましたが、周りに『続けてほしい』と言われたこともあり、決断しました」と話します。一方、加賀爪さんは「春に優勝がかった試合で負けて、無茶苦茶、腹が立つて…。これじゃやめられないと、続けることにしました」

「必ず優勝する!」という意気込みで臨んだ秋季リーグ。柴田さんは絶対的

みんなが
優勝した
手に入れた
優勝だ
と思います

右/理学部理学科
数学コース4年
柴田 翔太
左/農学部農学科
暖地農学コース4年
加賀爪 匠



文武両道のバッテリーが 次に目指すものは?

硬式野球部の練習は高校時代よりも厳しく、しかも「野球しかやってこなかった」と2人は口を揃えますが、もちろん、そうではありません。柴田さんは教職課程を履修しながら、加賀爪さんは南溟寮(朝倉)と農学部(物部)を往復しながら、学業と野球に打ち込んできました。文武両道の充実した4年間。「以前よりも冷静に考えて、物事に取り組めるようになったと思います」(柴田さん)、「勝つためにはどうしたらいいのか、真剣に研究するようになりました」(加賀爪さん)と自らが成長したことを実感しています。

大学野球は学生自身がリーグ戦などの運営を行うのも特徴。日程の調整や球場の手配など、やるべきことはたくさん

応援してくれる
関係者や
マネージャーに
支えられました



ありました。こうした実務的な作業を行うことも得難い経験になったと、2人は振り返ります。

柴田さんは卒業後、大阪で教員をしつつ、野球も続けて都市対抗野球を目指すとのこと。そして、「最終的には高校の野球部を指導したいですね」と抱負を語ってくれました。加賀爪さんは第志望だった青果物の輸入・販売を行う大手商社に就職。「扱うのはバナナがメイン。フィリピンの農場が赴任地になるかもしれませんが」と世界に挑みます。

「勝つためにはどうしたらいいのか、真剣に研究するようになりました」

「以前よりも冷静に考えて、物事に取り組めるようになったと思います」



独自のシートを使った 参加型・体験型の授業

「社会起業論の授業の特徴は、国内外の事例を学ぶのに加えて、学生が自らの考えを独自の「マイプロジェクトシート」に書きこむ点にあります。同シートに、これまでの人生で何を感じてきたか、何にほまっていたか、いまの生き方につながる出来事はなかったかななどの自分の「ヒストリー」と、やってみたい「自分のプロジェクト」を記入。こうして作成したシートを学生同士で見せ合って対話を行い、学んだことと照らし合わせたりしながら、プロジェクトと自分のつながりを意識していきます。

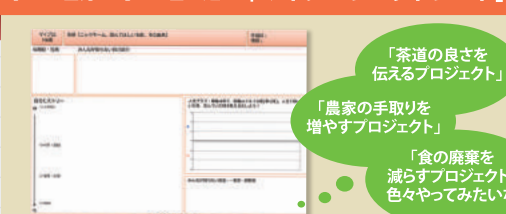
「知られている成功事例の多くは、社会課題から導き出されたものではなく、実践者自身の見過ごせない問題や個人的な原体験がきっかけになっています。実は、ここがとても大事。マイプロジェクトを深めていく参加型・体験型の授業は、一人ひとりの何気ない想いが社会とつながっていることを実感して

もっつのが狙いです」

「農家の手取りを増やす」「子ども×自然」で高知の未来を考える」など、学生たちが考えるプロジェクトはさまざま。授業を進めるうちに、他者の共感を得ることが成功の秘訣だと、学生たちは理解するようになるそうです。

「課題先進県」といわれる高知県。「社会起業論」を修めた学生たちの具体的な行動が、将来の高知や地域を変えるかもしれません。

学生が自分の考えを書き込む「マイプロジェクトシート」



「茶道の良さを
伝えるプロジェクト」

「農家の手取りを
増やすプロジェクト」

「食の廃棄を
減らすプロジェクト」
色々やってみよう

「身近なことを変えられないと、社会を変えることは出来ない」という考えを元に、自分の身近な課題に小さな一歩を踏み出すことで、地域社会の課題解決に応用できる手法や理論を学習していきます。

先生に聞きました!



PROFILE

教育研究部 総合科学系
地域協働教育学部 講師

すとう じゅん
須藤 順

青森公立大学大学院博士後期課程修了。博士(経営経済学)・社会福祉士。医療ソーシャルワーカー、独立行政法人中小企業基盤整備機構リサーチャーなどを経て、2015年、地域協働学部の新設に伴って赴任。「学生時代から馬路村や四万十ドラマを何度も訪ねてきました。東京にいた頃より、生活のリズムがはるかに整いました。」

高知大学ニュース

地域コミュニティの中核を担うため 今後の大学の有り方を協議

高知大学は、2月27日、28日、高知市において、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」及び「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の全国シンポジウム「大学改革と機能別分化 地域における大学の存在意義の高まりと将来のあり方」を開催しました。全国から地方創生を推進する大学や自治体関係者等約350人が参加しました。

COC事業及びCOC+事業は、大学が地域コミュニティの中核的存在として地域と連携して行う、地方創生に向けた取組を支援する事業です。高知大学では、両事業に精力的に取り組んでいます。

シンポジウム初日は、実施機関の事例報告や情報交換会が行われ、全国各地での活動の情報共有がされました。

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 全国シンポジウムを開催



▲施策説明を行う堀見氏



◀基調講演を行う
小田切氏

文部科学大臣優秀教職員表彰

長年の教育への姿勢が 表彰につながる

平成27年度文部科学大臣優秀教職員として、教育学部附属小学校の田中元康教諭が、文部科学省より表彰されました。田中教諭は、複式教育研究も含めた国語科教育において高い専門性を有し、卓越した指導力を持ち他の教員の模範となる実践を行い、顕著な成果を上げたことが表彰につながりました。



◀受賞報告後の記念写真
(前列右)田中教諭

学生防災サークル 「防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会長賞」を受賞

地域住人を巻き込んだ 活動内容が高評価!

学生防災サークル「高知大学防災すけっと隊」が、消防庁の第20回防災まちづくり大賞で日本防火・防災協会長賞を受賞しました。

「防災まちづくり大賞」は、阪神・淡路大震災を契機に創設され、自治体や自主防災組織等における防災

に関する優れた取組、工夫・アイデア等、防災に関する幅広い視点からの効果的な取組を推奨し、災害に強い安心・安全なまちづくりの一層の推進に資することを目的として実施されています。

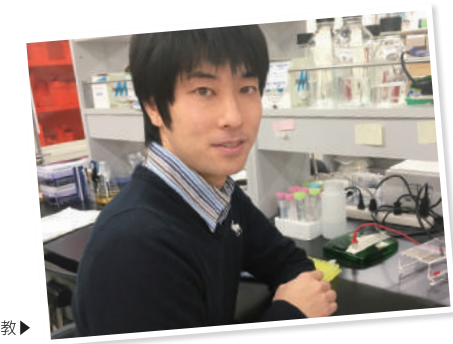
同隊が、平成26年12月より「耕活(こうかつ)プロジェクト」と名付け取り組んできた、街に眠る耕作放棄地で地域住民とともに作物を育て、回転備蓄させるとともに、日頃から住民のコミュニティスペースとして開放し、地域コミュニティを活性化させている活動が高く評価されました。



▲表彰状を授与される防災すけっと隊代表
折中新さん(理学部4年)

副作用のリスクの低い新しい抗癌剤の開発に繋がる 「抗癌剤が作用する標的」を発見

世界的に重要な発見として 評価を得る



難波特任助教▶

本学総合研究センターの難波卓司特任助教らの研究グループは、副作用のリスクの低い新しい抗癌剤の開発に繋がる「抗癌剤が作用する標的」を発見し、その研究成果が平成27年8月21日付で米国科学雑誌Oncotarget誌に「重要度の高い研究論文」として掲載されました。また、カナダの医学・生物学系情報サイトGlobal Medical Discovery(※)の「重要科学論文」の1つに選ばれ、平成27年12月10日付で同ホームページに紹介されました。

※理学・医学分野で出版される国際誌、2万件以上の論文の中から毎週審査委員が注目すべき論文20件を選定して紹介するサイトで、国際的に評価があるとされています。

平成27年度高知大学研究顕彰制度授賞式



高知大学研究顕彰制度は、大学の研究の活性化と発展を目指して特に優れた研究を行った教員、若手研究者及び大学院生を表彰しています。今年度は、「研究功績者賞」3名、「若手教員研究優秀賞」2名、「大学院生研究奨励賞」1名が選出され、脇口宏学長から今回の功績に対する敬意と、今後の大学の研究発展に寄与してくれることを期待した祝辞が述べられました。

今年度の受賞者は以下のとおり

研究 功績者賞	人文社会科学部門 後藤 拓也 准教授	農学部門 藤原 拓 教授	生命環境医学部門 康 峪梅 教授
若手教員 研究優秀賞	基礎医学部門 清水 翔吾 助教	農学部門 西村 朋宏 特任研究員	
大学院生 研究奨励賞	 連合農学研究科 生物環境保全学専攻 長谷川 雄基 さん		

海洋汚染の現状を現地から発信するために

「トビタテ！留学JAPAN日本代表」に採択

官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学Japan

日本代表プログラム」(※)に、農学部農学国際国際支援学コース3年の久保穂波さんの留学計画が採択され、3月5日に行われた派遣留学生壮行会で文部科学省、馳文部科学大臣から久保さんら派遣留学生に激励のことが贈られました。

久保さんは、漂流プラスチックによる海洋環境汚染の現状を把握するため、6月からタイ国のカセサート大学において総合沿岸管理を学んだ後、8月から11月までパラオに滞在し、住民らと調査活動や報告会、データベースを作成するなどして、海洋汚染の現状を現地から世界に発信する予定です。

※同プログラムは、2020年までに我が国の学生の海外留学を倍増させるという政府の目標の下、民間からの寄附目標200億円により留学奨学金を提供することを通じ、オールジャパンで世界で活躍できる人材を育成しています。



◀派遣留学生に決定した
久保穂波さん

教育学部 教員養成課程の教員就職率が全国第2位

文部科学省の国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の平成27年3月卒業者の就職状況調査において、本学教育学部学校教育教員養成課程の教員就職率(卒業生のうちの教員就職者)が前年比4ポイント増の73.5%で、全国2位となりました。また、卒業者から進学者及び保育士を除いた教員就職率も78.3%と、全国7位となりました。

基金「高知大学さがけ志金」 ご寄附のお願い

■ 高知大学さがけ志金の目的

高知大学の理念である『地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問、研究の充実・発展を推進する』ため、これらに対する事業の支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的とします。

■ 募金の対象者

本志金の趣旨に賛同いただける個人・法人・団体等

■ ご協力をお願いする金額

個人による寄附金につきましては、1口1千円を単位とします。法人・団体等による寄附金につきましては、1口1万円を単位とします。(本志金の趣旨をご理解いただき、なにぞ複数口でのご協力をお願いします。)

■ 高知大学さがけ志金ホームページ

インターネットのウェブ検索サイトで“高知大学さがけ志金”とご入力いただき、検索をお願いします。

高知大学さがけ志金



お問い合わせ先

〒780-8520 高知市曙町2-5-1
高知大学さがけ志金担当 TEL:088-844-8100
FAX:088-844-8738 E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp